

ラオスのこども通信

49号
2010年 7月発行

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603

特集 ラオスの中高生、 文化、芸術を伝え、大活躍!2

プロジェクトの動き.....5

国内の活動 / イベント.....6

国内の活動 / 事務局より.....7

寄付者・協力者のみなさん8



明治学院大学で伝統舞踊を披露

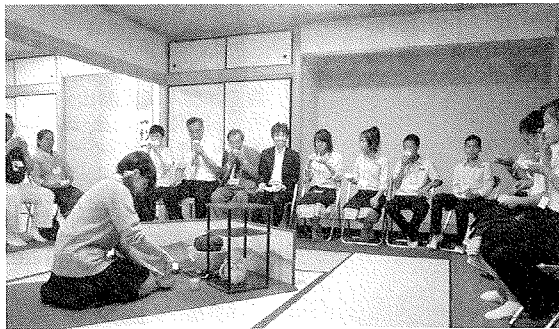
ラオスの詩の美しさ、
豊かさを日本の人々に
中高生が朗読で伝えます。

ラオスの中高生10人が6月に来日。
東京、横浜でラオスの叙事詩「サン
シンサイ」の朗読劇や伝統舞踊を披
露しました。「ラオスのこども」が
支援するヴィエンチャン都子ども教
育開発センター(CEC)で3年間練習
を重ねた成果は人々に感動を与え、
日本の中高生には大きな刺激となり
ました。

特定非営利活動法人ラオスのこども
は、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていく
ために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの
出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」
などの支援を行っています。

ラオスの中高生、文化、芸術を伝え、大活躍！

6月23日～7月2日に日本を訪れた中高生たちの活躍、交流、わくわくの10日間を報告します。



●見るものすべてにびっくり！

今回の来日は、ラオスの文化、芸術を日本の人々に紹介し、交流をすることを目的としたもので、大田区地域力応援基金の助成を受けて実現しました。

来日した子どもたちはヴィエンチャンにある児童館型の施設「子ども教育開発センター」に通っている中高生です。

初めて乗る電車で酔ったり、ラッシュにびっくりしたり、でもすぐに馴染み、渋谷の若者のファッションやトイレに操作ボタンがいっぱいあることに驚いたりしながらスタートしました。

2日目は都立雪谷高校を訪問。茶道部のおもてなしを受け、お茶の作法を初体験。「香りがよかった。でも、苦かった」とお茶の感想をもらいました。生徒会のみなさんとの交流会も楽しいひとときでした。

●誇りをもって演じます

3日目は明治学院大学で叙事詩「サンシンサイ」の朗読劇と踊りを披露。伸びやかな声、美しいラオス語の響きに聞く人々も引き込まれ、感動を誘います。主人公シンサイ役の最年少（11歳）のJ君に質問。

「とても長い詩、覚えるのたいへん？」

「ほんのちょっと」

「じゃ学校の勉強は、かんたん？」

「えー、それはだめ」

ラオスの国花ドクチャンパーの優雅な踊りで会場を魅了したNさんに「どんな気持ちで踊っているの？」と質問。

「ラオスの文化を紹介できることを誇りに思います」とのことばが返ってきました。

そして子どもたちはホームステイ先の方たちとそれぞれの家庭へ、にこにこしながら向かいました。

4日目は大田区国際交流週間大交流会（池上会館）。朗読とともに様々な民族衣装をまとうて多様な文化をたたえる踊りを紹介。多くの家族連れが来場し、ラオスの中高生たちは小さな子どもとすぐに仲良くなるなどラオスらしさを発揮していました。

●中学生との演劇 ダンス・ワークショップに参加

5日目は横浜北部中学演劇教育研究会の演劇技術講習会に参加。プロによる舞台照明の中、250人の中学生を前にしなやかにそして力強く演じました。

ダンス・ワークショップは日本の子たちはまだ慣れない1年生が多かったのか、素直に表わせず、自信

が持てない感じでしたが、ラオス勢は終始笑顔で楽しくてたまらない様子を全身で表現。引率のトンバイ CEC 副館長は、「ラオスでも取り入れたい」と注目していました。

●初めての海辺で潮干狩り

6 日目は NPO 法人東京湾藍い海の会のご厚意で、海に連れて行っていただき、潮干狩りを体験。しじみのお吸い物をおかわりし、貝の刺身に舌鼓を打ちました。そして大田区立大森第三中学校を訪問。廊下に飾られた生徒さんの美術作品のレベルの高さに大変感動しました。

そろそろ疲れが出てきた 7 日目ですが、待望の東京ディズニーランドを楽しみました。子どもたちはスタッフの丁寧な対応ぶりにも感心した様子でした。

8 日目は国立科学博物館で知的好奇心を満足させた後、ライフコミュニティ西馬込での当会主催 2 回目のイベントに向かいました。

9 日目、最後の訪問先は都立美原高校。音楽の授業に参加し「手紙」「We are the world」を一緒に合唱。そして和太鼓部の見学では迫力ある叩きぶりに圧倒され、みんなで撥を振りました。また七夕も近いことから用意していただいた笹の葉の飾りつけを体験。短冊の願い事はラオスに持ち帰った後、家族のみんなと一緒に書くそうです。

そして 10 日目、7 月 2 日、成田を発ち、ラオスへ無事帰国しました。訪問先、ホームステイ先、そして同行して下さったみなさん、ありがとうございました。文化を伝え、交流し、中高生・引率者ともに学び、刺激を受け、大きな成果があった 10 日間でした。



叙事詩「サンシンサイ」の朗読、その取り組みの意味とは

●「サンシンサイ」とは

古くからラオスに伝わる民話で、鬼のクンパンにさらわれた王様の妹で絶世の美女スムターを、甥のシンサイとサントーンらが救い出す物語です。17 世紀にパンカムによって 5000 行におよぶ詩にまとめられました。

シンサイらはスムターを探す道中、巨大な象に行く手を阻まれるなど数々の障害に出くわします。流血は避け、ことばのやりとりで相手を仲間に引き入れるなどの展開が聞き手を引きつけます。近年、ラオス政府は国の文化財として「サンシンサイ」を指定しました。文学が指定されるのは初めてのことです。

●子どもたちにとって、なぜ朗読？

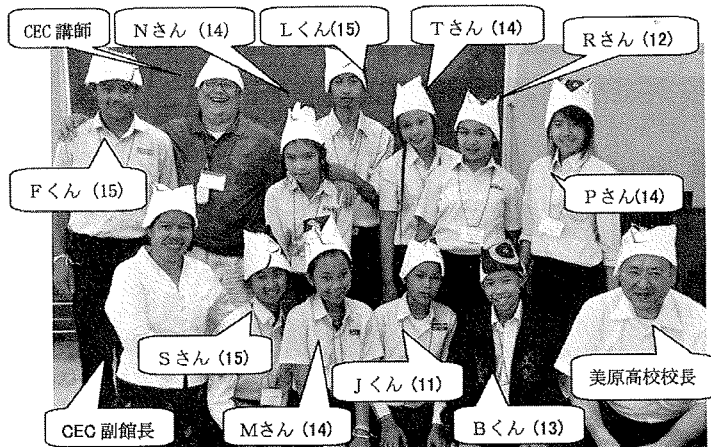
「詩が韻を踏んでいてリズムがあって、替え歌や言葉遊びができる」と中学生がサンシンサイの詩の楽しさを教えてくれました。ラオスでは読書の習慣がいまだ普及していない、読み書きの習得が不十分なために進級できない小学生も少なくありません。詩の朗読は仲間と楽しみながら語彙を豊かにし、文章理解力を高め、自信をつけていくものとなりそうです。

中高生の朗読活動に触発されて小学校でサンシンサイの朗読グループの活動を始めている先生もいます。サンシンサイは美女を助けるだけでなく、子どもたちを落第からも救ってくれるのでしょう。

子どもたちの居場所を、活動を発表できる機会を。 子ども教育開発センター(CEC)にご支援ください。

子どもたちに聞きました！

() の数字は年齢。ラオスは小学校(5年制)が義務教育。中学、高校へはヴィエンチャン都では多くの子どもが進みます(ラオス全体では中等教育の純就学率は男子38%、女子32%)。



①いちばん印象に残ったことのは？ ②プラスになったこと、帰ってからしようと思うことは？ ③将来何になりたい？

Fくん：①ディズニーランド ②赤信号では止まるようにする

③エンジニアになっていろいろな製品を発明したい

Nさん：①ホームステイ ②電車で席を譲ってもらった、人が譲っているのを見て、立たなかった自分に反省 ③小説家

Lくん：①中学生との演劇 ②部活を見て、自分も学校とCECをしっかりとやりたい ③獣医

Tさん：①博物館の恐竜 ②学校見学をして、自分も授業中静かにしようと思った ③キャビン・アテンダント

Rさん：①日本の中高生との出会い ②授業中おしゃべりをしないこと ③銀行員

Pさん：①出会い、料理、すべて感動 ②時間を守ること ③外科医(手術をしたい)

Sさん：①和太鼓 ②横浜で習ったダンスをふだんでもやりたい ③銀行員

Mさん：①日本料理のラーメン ②野菜をもっと食べること ③金融系

Jくん：①日本の高校生と歌った「手紙」の歌 ②ズボンにシャツをちゃんと入れる ③軍人

Bくん：①博物館の地球の誕生、学校の部活、発表できる場所がたくさんあること ②地理で習ったことが博物館でよくわかり、プラスになった ③医者

「日本の高校生の印象は？」

Pさん：いろいろ勉強できてうらやましい

Tさん：女子のスカートが短いのに驚いた

Lくん：男子の髪の毛の長いのはよくない

●子どもたちは「助け合ったり、許し合うことを学んだ」

ヴィエンチャン子ども教育開発センター(CEC)は、子どもたちがだれでも自由に立ち寄り、様々な自己表現活動ができる場を目指して当会がヴィエンチャン都教育局に協力し、生まれた施設です。図書室を開設するとともに、休日には伝統舞踊や絵画・図画工作、音楽、そして詩の朗読など子どもたち向けの様々な講座を実施しています。同時に教員研修室も備えたユニークな施設です。

子どもたちにとって、CECとはどんなところかを聞きました。「学校では学べない歌や踊りができるところ」「学校の勉強は受身的だけど、CECは自分からやってみることができるし、先生も楽しい」「いろんな年齢の子と友だちになれる」「助け合ったり、許し合うことを学んだ」

また、CECに来て自分に変化があったかを聞きました。「以前は人前で何もできなかったけれど、踊りを発表して自信がついた」「自分は人としゃべるのが苦手だった。CECに来て、みんなと冗談を言い合ったりできるようになってうれしい」子どもたちは活動を通して社会で生きる力を身につけています。

●子どもたちが主体的に判断し、

表現する力を身につけていくために

今回の来日メンバーの人選は、朗読・踊り・歌が上手だけでなく、年下の子の面倒が見られること、という条件をCEC講師が設け、子どもたちによる互選としました。大人だけで決定せず、そこに子どもたちが参加する点がCECらしさといえます。

CEC副館長は、「教員をしていたころは生徒の成績ばかり気になっていましたが、CECでは子どもたちが自分を表現できるようになり、率先してものごとに取り組み、人間的に成長することを願って活動しています」と語ります。

現在、同様の施設(子ども文化センターなど)が全国各地で運営されています。教科書の内容を覚えることが中心の学校教育ではほとんど行われない、子どもが持つ多様な表現能力を子ども同士で伸ばしていける場として、当会では4県で12か所を支援しています。

しかし、いくつか大きな課題を抱えています。ラオス社会が急激に消費社会化する中、子どもたちが主体的に判断し、表現する力を身につけていくための対策が急がれるにも関わらず、そこにあまり光が当てられないこと。こうした施設の職員であっても、副館長が語るような子どもの発達への眼差しを持ち、そうした視点でプログラムを作り上げる人材が少数で、その育成に時間がかかること、です。

これからも当会では各施設の運営を支援をしていく方針です。しかし運営資金が不足しているのが現状です。子どもたちが生きる力を大きく伸ばす活動にご理解、ご支援をお願いいたします。

プロジェクト の 動 き

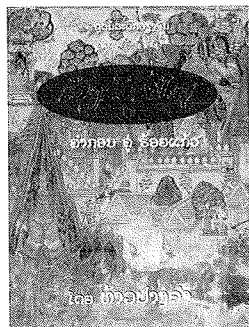
●ラオスで出版した作品 (2010年1月～6月)

■『サンシンサイ』

作：パンカム

18×24cm、表紙カラー/本文モノクロ
189頁、2060部（キヤノン株式会社ご支援）

民話を叙事詩として描いた17世紀作品です。ラオスの風物が目に浮かぶように絵画的に表現され、ラオスの人に愛されてきました。子どもたちの朗読活動に使われています。



■『シナーとユウ』

作・絵：ヴァンマイ

18.5×25.5cm、前カラー、34頁
5000部（学習院女子大学のご支援）
モン族の民話。ヘビの王子と結婚した妹を妬む姉が次々と嫌がらせをしていく、民話ならではの毒を含んだお話。2002年に当会実施の民話絵本コンクールで入賞、出版した作品の再版です。



■『宮沢賢治』

作：西本 鶏介

ラオス語訳：チャンタノン インタヴォン
147×21cm、表紙カラー/本文モノクロ、177頁
2000部（財団法人 大同生命国際文化基金のご支援）

宮沢賢治の伝記のラオス語訳。当会では翻訳作品の出版にも力を入れています。賢治の自然観・宇宙観はラオスの若者にも共感を呼ぶことでしょう。



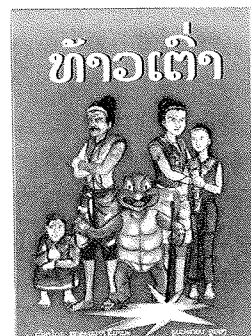
■『カメくん』

作：スックサワン シマナ

絵：ウトン

18.5×25.5cm、前カラー、28頁
4500部（「OKI愛の100円募金」沖電気工業株式会社のご支援）

ラオスは多様な民族が豊かな民間伝承を育んできた国です。古い時代からラオスに住んでいたといわれるカム族の民話で、カム族作家による作品です。



●新規開設した学校図書室 (2009年11月～2010年4月)

空き教室を利用したり、学校の先生や地域の人々が書棚を作るなど、大きな資金を投入することなく学校に図書室を開設します。図書の提供とともに、絵本を初めて手にする先生も多いので貸し出しの管理、子どもたちが読書に親しむための読み聞かせなどの研修を行います。開館式には村長さんなどを招いて、「地域の図書室です。みなさんで利用してください」とアピールします。



サイヤブリ県：1小学校

フアパン県：1小学校、1中学高校

ルアンナムタ県：2中学高校

アタプ県：2小学校

サワンナケート県：2小学校、3中学高校

カムワン県：1小学校、1中学高校

合計：6県14校（9小学校、5中学高校）

ご支援下さった皆様（敬称略、五十音順）

恵泉女学園中学高等学校 鈴木登志江

早川要清・和田慎二 福岡那の香ライオンズクラブ

ベルマーク教育助成財団・ベルマーク友愛援助運動参加校

三井住友銀行ボランティア基金

武庫川女子大学附属中学校高等学校・図書情報委員会

ラオスー日本空港ターミナルサービス株式会社（LJATs）

リーグルジャパン株式会社

ラオスのこどもが認定NPOとなりました

国税庁から、認定NPOとして認定されました。

特定非営利活動法人 ラオスのこども

国税庁認定番号：課法 11-192

認定年月日：平成4月26日

認定を受けたことで、ラオスのこどもに対するご寄付は、

- ・個人の方においては、確定申告時などの所得税の計算において寄付金控除の対象になります。
- ・また法人では、法人税の計算において、一般寄付金の損金算入限度額に加え、別枠の損金算入限度で処理できることとなります。
- ・さらに、相続または遺贈により財産を取得した方が、相続財産をご寄付なさる場合には、ご寄付なさる財産の価格は、相続税の課税対象から除かれます。

国内の活動・イベント

2010年4月～6月

イベント

●サバイディー・ピーマイ・パーティ 2010

4/24 主催 ラオスのこども / 池上会館

ラオスの新年（ピーマイ）を祝う恒例のサバイディー・ピーマイ・パーティ。今年は参加者107人、ボランティア・スタッフ37人、ラオスからの留学生15人、合計159人が集まりました。毎年好評の手作りラオス料理は、今年は青パパイヤのサラダや魚を煮込んだタレを使った麺料理など約10品を用意し、美味しく味わっていただきました。

留学生による伝統舞踊とラオス伝統叙事詩「サンシンサイ」の朗読、活動紹介DVDの上映、ラオスのおみくじ、ラオス国営航空ご提供の航空チケットの当たるクイズ、ラオス手工芸品の販売など、多彩なプログラムで楽しんでいただきました。参加者の皆さんからは「いろいろな人と交流することができた」「アットホームな雰囲気の中で楽しめた」といった感想が寄せられました。パーティの収益は活動に役立てさせていただきます。



●大森・大井夢フェア

5/8・9 JR大森駅前

JR大森駅周辺の商店街が主催するイベント「大森・大井夢フェア」は今回11回目を迎えます。羽田空港の再国際化にちなんで、世界各国の屋台を出そう！という企画のもとに当会初参加し、唐揚げやドリンクを販売しました。駅周辺で買い物ついでに立ち寄るお客さんが多く、ラオスをまったく知らない人たちが、食を通じてラオスを知りきっかけになっていたらしい限りです。

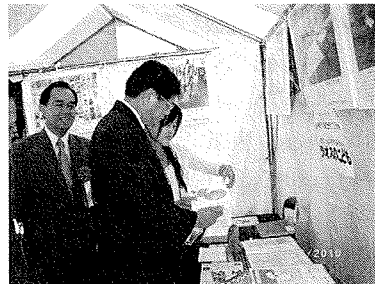


●ラオス・フェスティバル 2010

5/22・23 代々木公園イベント広場

ラオス・フェスティバル 2010は、2日間で11万人の来場者があり、当会ブースはラオス語の絵本、小説、辞書やラオスのかわいい民芸品を並べ、他ではなかなか手に入らないと品切れが続出するほどの人気ぶりでした。

来日中のブアソーン・ラオス首相も当会のブースを訪れました。当会が出版した絵本を手に取り、とても興味深そうにご覧になり、「ラオスの子どもたちのために力をつくしてくれてありがとう」と嬉しいお言葉をいただきました。



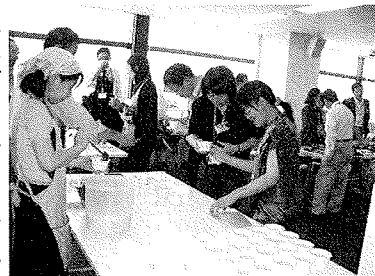
●食べるボランティア

5/25 リコーテクノシステムズ(株)/東京・台東区

社員の方に向けてランチタイムを利用して17階リフレッシュ・エリアで「食べるボランティア」を実施しました。昨年に続いて2回目の開催でリピーターの方も多く、今年はラオス・コーヒー101杯、冷したバナナ入りナムワーン（ラオスのスイーツ）125杯を提供しました。

窓からは建設中の東京スカイツリーが見えます。日に日にのびている姿をみながら今日もランチタイムを楽しんでいただけたよう

です。お手伝いしてくださった社員のみなさん、食べるボランティアに参加してくださったみなさん、ご協力ありがとうございました。



●ラオスのこども勉強会（その2）

6/12 「夏にぴったりに！本場の味を日本の素材で」/馬込文化センター 調理室

2回目の「ラオスのこども勉強会」はラオス料理教室を開催。講師にはルアンパバーン出身のチッタボンさんをお迎えし、22名の参加者が魚のカオプン（魚でだしをとったスープに野菜たっぷりの麺）、ポンマーククワ（ナスの辛みそ和え）などにチャレンジ。みんなでおいしくいただき、食後は当会が出版した民話絵本の読み聞かせを楽しみました。「また参加したい」「織物やラオスの民話など料理以外にも興味を持った」という意見をたくさんいただきました。



国内の活動・事務局より

2010年4月～6月

<東京事務所の動き>

- 4月
3/22～4/7 ラオス出張（中期計画策定会議、現場視察）
（チャンタソン、森、野口、深山、赤井）
4/10 運営会議（ピーマイ・パーティ準備会議）
4/24 サバイディ・ピーマイ・パーティ2010
5月
5/8～5/9 大森・大井夢フェア、18:00～ピーマイ反省会
5/16 認定NPOとして認定
5/22 理事会
5/22～5/23 ラオスフェスティバル2010
5/25 リコー食べるボランティア（深山・尾澤）
6月
6/1 東京大森ライオンズクラブ例会にて卓話（野口・尾澤）
6/12 第2回勉強会「ラオス料理教室」（チッタポオンさん）
バーニングギャラクシー研修（深山）
6/23～7/2 ラオスの中高生来日
6/25 明治学院大学にて「子どもたちの感じるラオスの今」
6/26 大田国際交流週間2010「世界を味わう！大交流会」参加
6/30 ライフコミュニティ西馬込にて「ラオスの世界によこそ！」

<ラオス事務所の動き>

- 4月
3/31～4/2 ボリカムサイ県「学校巡回訪問・HAフォロー・CCC訪問」
4/4～5 中期計画会議
4/7 ボリカムサイ県「学校巡回訪問」
4/14～18 ピーマイ祝日
4/26 学校図書室（HA 146, HA 147）へのフォロー活動
4/28 学校図書室（HA 204）開設式
4/29～30 学校図書室（HA 203）開設
5月
5/11 ヱエンチャン県「学校巡回訪問」
5/19 ヱエンチャン県「HAフォロー」
5/29 ボリカン郡の小学校にて、「子どもの日」出前イベント実施
6月
6/1 CEC ヱエンチャンにて「子どもの日」イベント実施
6/16 Education Sector Working Group Meeting 出席
6/19 CEC の来日メンバー向けオリエンテーション
6/28～30 子どものための身体表現ワークショップ実施

※HA＝ハックアーン（学校図書室）CCC＝子ども文化センター
CEC＝子ども教育開発センター

お知らせ

●通信 50 号からリニューアル

年に3回発行している「ラオスのこども通信」は、次号 50 号からリニューアル予定です。
新しく生まれ変わる通信に乞うご期待！

●第8期通常総会

特定非営利活動法人ラオスのこども2010年度
（2010年7月～2011年6月）通常総会を開催します。
日時：9月18日（土）14:00～ 馬込区民センター

イベントお知らせ

●毎年恒例の麻布十番納涼祭りが8/20～22に開催されます。残念なことに、当会が参加していた国際バザールは、会場である一の橋公園が工事のためしばらく中止となるそうです。

●グローバルフェスタ JAPAN

10万人近くが訪れる国内最大の国際協力イベント「グローバルフェスタ JAPAN」が今年も開催されます。NGOのほか国際協力機関、青年海外協力隊、企業など多数参加、当会も出展します。

日時：10月2日（土）、3日（日）場所：日比谷公園

●OTAふれあいフェスタ 2010

～みんなでおいでよ！日本の玄関OTAのフェスタ♪～
今年で第21回目を迎えるフェスタ、当会も出店を予定しています。
日時：11月6日（土）、7日（日）10:00～16:00
場所：平和島競艇場

●ラオスの織物展

ラオスの織物展示、販売イベントを今年も開催予定です。
ここでしか手に入れることができない貴重な織物の数々をご用意して、皆さまのご来場をお待ちしております。

●ラオスのこども勉強会（その4）

旅、料理などさまざまなテーマを入口にして、ラオスの今を知ることができるのがこの勉強会です。お楽しみに！
日時：10月9日（土）
※イベントについて詳細はホームページでお知らせします。

●イベントボランティア募集中！

イベントのお手伝いをしていただける方、随時募集しています。ボランティア希望の方は事務局まで電話かメールにてご連絡ください。お待ちしております！